

“東京の新しい都市づくりビジョン”について

第1章 新しい都市づくりの必要性

現状を分析し、東京の問題点をとりあげて、需要対応型の都市づくりを反省し、政策誘導型の都市づくりへ転換するとしているが、外環計画そのものは、23区内の自動車公害、渋滞等を解消するために計画されたことは明白だ。これが需要対応型でないと言うのであれば政策誘導型の道路計画とは何か？

これは人口集中を誘導するための政策なのか？

第2章 東京がめざす新しい都市づくり

1. 都市づくりの目標

この中で経済の牽引車としての機能を発揮するとあるが、東京をこれ以上、経済集中の拠点とするつもりなのか。同時に物流も集中すると思わないか？

「世界をリードする魅力とにぎわいのある国際都市東京の創造」とあるが、何で世界をリードするつもりか、魅力とはカジノか？

2. 都市づくりの理念

(1) 「そこで暮らす人々が豊かで安定・充実した生活ができるようにするためには、東京のビジネス環境や産業活動の国際競争力を高め、都市活力の維持発展を図ることが不可欠である」とあるが、“豊か”で“安定”“充実”といているが、その中味は何か。真の豊かさとは人間をとりまく環境の自然・薫り高い文化、豊かな隣人関係と私には思えるがどうか。また安定とは安心して暮せる環境を作り出すことではないか。ふだんの生活環境の中での安心、治安とか、災害時における建物、道路、電柱等の安全確保はどうなっているか。安定とは経済的な安定だけではない筈。人間が安心して生きることの出来る状況を作り出すことが安定ということではないか。また充実というが、経済活動が加速し、高収入を得られることが充実なのか。他者の平穏な生活を脅やかしてまで自身の利益や利便性をどこまでも追求するつもりなのか？

(2)「環境負荷の低減や環境との共生」といっているが、現状の外環、環八、環七を見てもとうてい外環を延長したぐらいで環境負荷が変わるとは思えない。それが出来るのであればいつまで、どの程度まで下げられるのか、まず、その確実な見通しを示すのが政治の責任ではないか？

(3)“ 独自性のある都市文化の創造・発信をはかる ” とあるが、独自性とは何か？文化は歴史的伝統、相関性の社会、宗教的精神の中から生れてくる。他者や自然との関係性の中で人間は成長し、五感を磨きながら文化を創造して行く。コンクリートジャングルの中で創造される文化、人間関係が利益の対象となる社会でどんな文化が芽生えるというのか？

(4)(5)については異論はない。

3 . 都市づくりが実現すべき主要な政策課題

これについては、いろいろ項目を並べているが、絵にかいた餅にならないか？この項目がすべて理想的な形で実現するとすれば東京圏の人口を 1/2 ぐらいにしないと実現できないのではないかと。広域交通インフラといっているが、都市の中の道路はドアからドアへが原則ではないか。環状高速道路などより、一般道路の拡巾（4～6車線）が必要なのではないかと。第1に全国の人口が2050年に20%減になるというのに東京圏を10%減に誘導するというのは相対的な人口集中が東京都の目標なのか？都心の機能更新を進めるとあるが、夕留で職住近接をうたい都心への人口集中を誘導しているのは何故か？

都市は行政によってデザインされた人間の住む空間ではない。人間の存在は経済構造や国家の利益を生む手段ではない。住民1人1人の幸福、言い換えれば安心して生活できる社会というものは国家の崇高な目標ではないか。豊かな人間関係、心安まる自然環境、弱者にもこよなく優しいインフラの構築は都市行政を担当する方々にとって最も大切なことではないのか？

以上第1章、第2章について私の疑問を書きました。時間と機会があれば第3章の環状メガロポリス構造についても、疑問点を書くつもりです。

協議員 新 守一